

いしかわスクエア



井上 道義の 未来だった今より

♪ 指揮者の採点

今月8日、東京のサントリーホールで母校の桐朋学園60周年記念演奏会があった。桐朋出身の14人の指揮者が出演するので「指揮者の祭典」と名付けられた同窓会主催のコンサート(「指揮者の採点! だな」と小澤征爾さんが楽屋でふざけていた)。僕は武満徹の作品を振った。そんなにたくさんの指揮者を1度に経験できる音楽会は世界を見渡してもほとんど存在しないから、お客さんは大いに楽しめたようだ。

だが、同じ学校で学び、同じ先生に習っても腕を一振りすればみなそれぞれオーケストラから違う音が出る。才能も人格も平等なんぞでないことにお客さんも驚いただろう。自分にはないもの、そこにはないものに人は憧れる。だからこそ人類は発展するのだが、一人ひとりには生まれた時代や環境から離れようとしてもできない。孫悟空が仏様の手の中から逃れられないように。

そんな現実が残酷に突き付けられたコンサートとも思えた。

しかし絶望するなかれ! 誰でも愛すべき自分と同じ一人の人間だ。人は誰でも、「ある時代・ある場所」以外に生きられないという点では全く平等なのだ。わが国では、仏教の歴史によるものか、自分を傷つけようとする者も、自分と同じ生き物とみて、罪を憎みこそすれ人を憎まず、という優しい文化を持つが、それはキリスト教の「汝の敵を自分のように愛せよ」という言葉とどこか似ている。だがこれさえ、よく考えてみてほしい。絶対を求める宗教ですら、時や環境の中にある。この文だって、日本語という枠組み(呪縛?)の中にいるのだ。神を思い、手をあわせたところで、オリジナルの「AMEN」ではなく、「あーめん」なのだから。紙一重違うのだ。

(オーケストラ・アンサンブル) 金沢音楽監督

「詩がたり会」で詩をよむ詩人の里みちこさん(金沢市長町)



「見えないからこそ、つかむことができるものもある。それは大拙の教えにも

「ない世界、聞こえない世界こそ大切。どうか自分の言葉でそれを紡ぎ出してください」と里さんは参加者に

小さな目

昨日 部屋に蛾が入ってきた
きもちわるい
つかまえようと思った
にげた
くやしい
またつかまえた
にげられた
イライラする
そうじきをもった
もうにげられないぞ
つかまえた
かくごころ

金沢市 倭小5年 西川 愛美

〈係から〉 このコーナーでは小学生の詩を募集しています。あて先は〒920・0981 金沢市片町1の1の30 朝日新聞金沢総局「小さな目」係まで。